2022

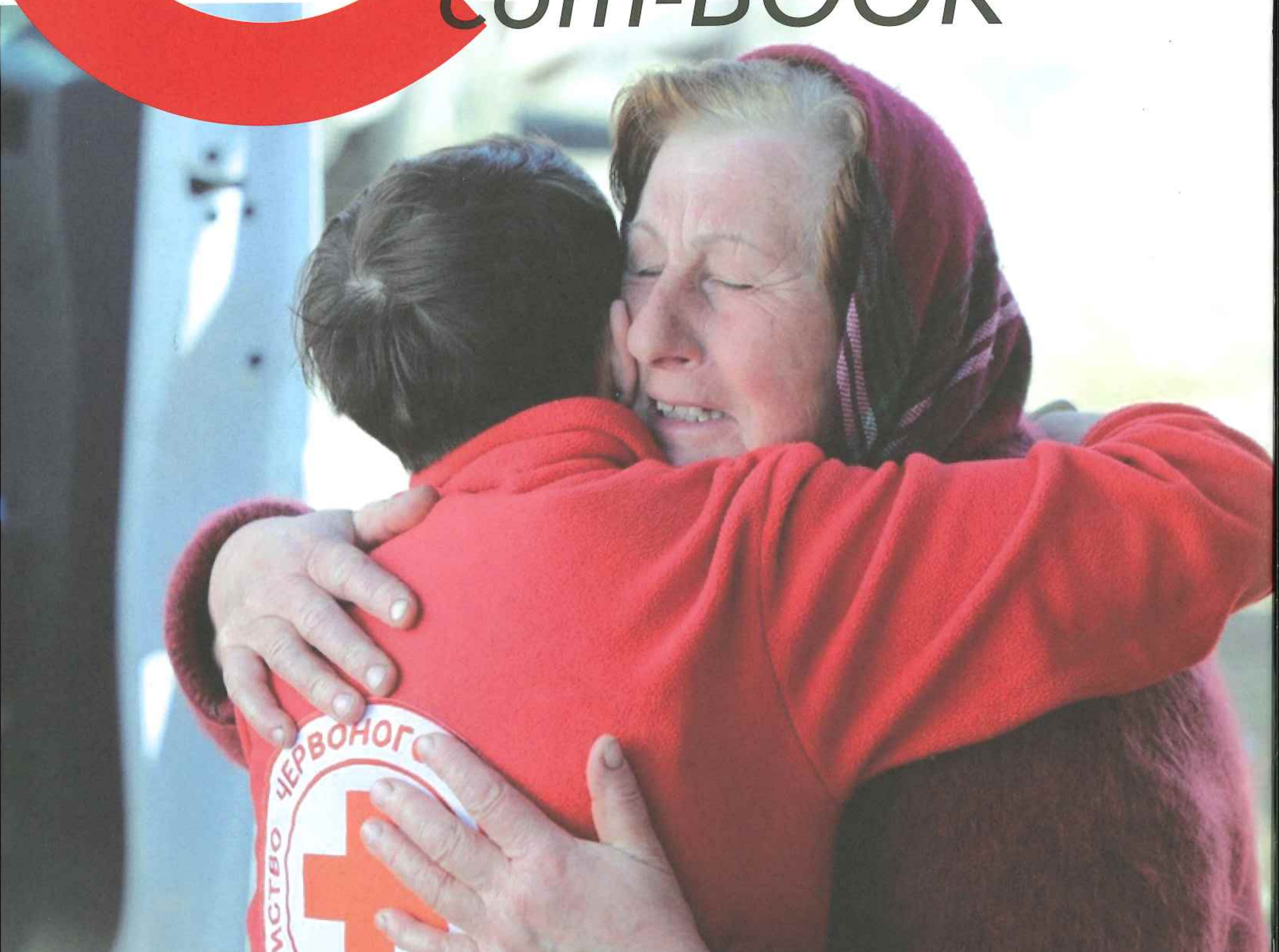
7

日本赤十字社会員誌

クロスコムブック

vol.3

# C com-BOOK



©ウクライナ赤十字社

## 青少年赤十字創設100周年
### ～誕生からのあゆみと未来への願い～

**「博愛のこころ」の原点・佐賀。日本赤十字社の創設者、佐野常民を訪ねて**

**ウクライナ危機での人道支援**

**令和3年度決算概要／令和4年度予算概要**

人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

c o n t e n t s


2 会員の皆さまからのメッセージ／ contents

4 特集1 青少年赤十字創設100周年
～誕生からのあゆみと未来への願い～

10 特集2 「博愛のこころ」の原点・佐賀
日本赤十字社の創設者 佐野常民を訪ねて

16 令和3年度決算概要／令和4年度予算概要

18 皆さまからの支援でできたこと

20 支援者の声 ～わたしも赤十字～

22 特集3 ウクライナ危機での人道支援
～世界の赤十字が取り組む最新の活動状況～

24 赤十字スタッフからのメッセージ
“救うを託されている”赤十字の現場から

26 全国の赤十字活動

28 INFORMATION

30 紺綬有功会のご紹介

31 赤十字グッズのご紹介


## 会員の皆さまへ

「Cross com-BOOK」という会員誌の名称には、赤十字が皆さまから託された想いを胸に、社会課題の解決を目指すという意味が込められています。
この会員誌を通じて、皆さまのご支援がどのように社会課題の解決につながり、未来へと受け継がれているのかをお伝えしていきたいと考えております。

山口県立華陵高等学校のみなさん

**会員の皆さまからのメッセージ**

「Cross com-BOOK」vol.2にたくさんのご意見やご感想、赤十字へのメッセージをお寄せいただき、ありがとうございました。一部をご紹介させていただきます。

読んで勇気づけられました。これから少しでも皆さんの手助けになるよう応援したいと思います。

表紙の写真感動です。やさしさと愛に充ちている。

赤十字の愛が広がりますよう祈ります。

ボランティアで活動される皆さまには本当に頭が下がります。特に若い方にはこれからの人生、幸多かれと祈るばかりです。

助けを必要としている人々への愛のご奉仕を大変尊いことと感謝申し上げます。

海外での活動が、災害時の一時的なものだけでなく、地道な活動もしていることにびっくりした。

JRC 100th Anniversary

# 青少年赤十字 創設100周年

## ～誕生からのあゆみと未来への願い～

### 青少年赤十字(Junior Red Cross)とは

青少年赤十字のはじまりは第一次世界大戦中、カナダ、アメリカ、オーストラリアの生徒たちが、赤十字を通じて、戦争で苦しむ人々をなぐさめ、励ますために手紙や包帯、慰問品などを届けたことで誕生しました。

日本の青少年赤十字は、1922(大正11)年に滋賀県の守山尋常高等小学校(現在の守山市立守山小学校)で「少年赤十字」として誕生。赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献する人間に成長できるようにとの願いを込めたこの活動は、2022(令和4)年に100周年を迎えました。

青少年赤十字メンバー数
**349万2,653人**

青少年赤十字加盟校
**14,441校**
(全校数の約31.3%)

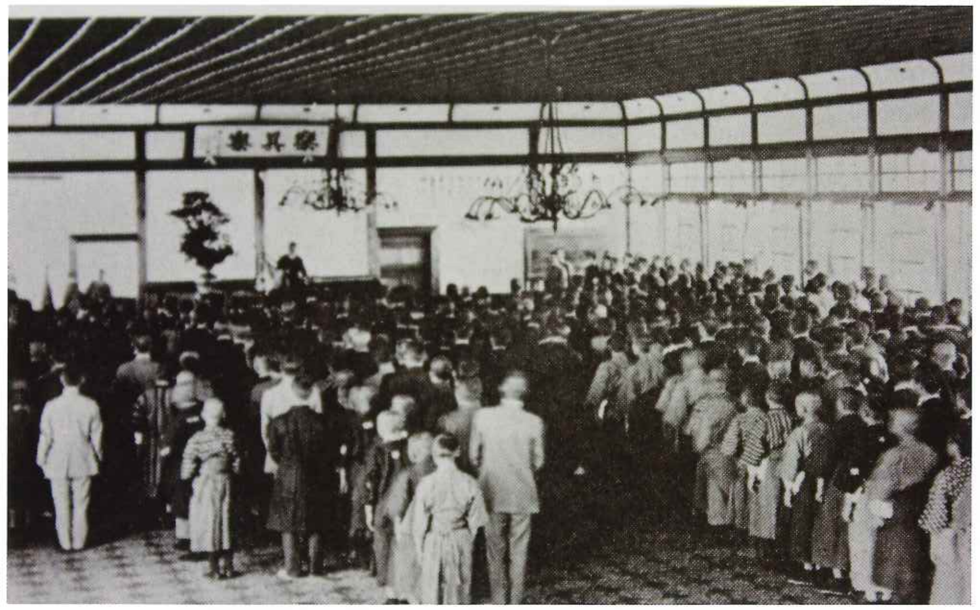
※加盟校数・メンバー数ともに令和4年3月現在



# 100年のあゆみ

日本赤十字社が取り組む「青少年赤十字」は、一般的な青少年団体とは異なり、学校と連携しながら子どもたちの中にある思いやりの心を育む事業です。
今回は、創設から変わらぬ理想を追い続けてきた100年を振り返ります。

## 1922年 青少年赤十字の誕生


守山小学校で行われた国内初の少年赤十字結団式

1926(大正15)年創刊の雑誌「少年赤十字」は国内外の少年赤十字団の活動紹介などが掲載された

第一次世界大戦時中、兵士のために靴下を編むオーストラリアの小学校の教員と生徒たち
NSW State Archives 所蔵

### 青少年赤十字 世界と日本での成り立ち

1914(大正3)年に起きた第一次世界大戦中に、オーストラリア、カナダ、アメリカの学校で生まれた、兵士とその家族への思いやりの行動がきっかけとなり、青少年赤十字が誕生します。

大戦終結後の1920(大正9)年に、赤十字社連盟は第1回総会で「すべての赤十字社は赤十字事業のためにその国の少年を養成すべし」と決議。1922(大正11)年には、加盟社に青少年赤十字の結成を勧告しました。それを受けて日本赤十字社も支部を通じて全国の小学校に少年赤十字の結成を促しました。滋賀県の守山尋常高等小学校に誕生した少年赤十字が、日本で最初の青少年赤十字とされています。

少年赤十字団で積極的に取り組んだ活動の一つが、国内外の学校間での「通信交換」でした。

1924(大正13)年に発行された「少年赤十字通信の手引」では「世界のあらゆる国の少年少女が、了解と友情とをもって結びつけられるならば、全世界の将来の福祉のため、また国際的正義と平和保障のため、比類なき力となるであろう」と意義を説いています。

### 年表で見る主な出来事

- 1914年 第一次世界大戦始まる
- 1917年 ロシア革命
- 1918年 第一次世界大戦終結
- 1919年 ベルサイユ条約調印
- **1922年 青少年赤十字誕生**
- 1923年 関東大震災
- **1926年 雑誌「少年赤十字」創刊**
- 1926年 大正から昭和へ
- 1928年 フレミングがペニシリンを発明
- 1929年 世界恐慌
- 1931年 満州事変

# 1934年 第二次世界大戦を経て

滋賀県大津市雄琴小学校で1950（昭和25）年に行われたリーダーシップ・トレーニング・センターの様子

大正末期から昭和初期にかけて作成された感染症予防啓発ポスターは、公衆衛生の教育ツールとしてヨーロッパでも高く評価された

スタディー・センターで、国際人道法とも呼ばれるジュネーブ条約を学ぶ

1965（昭和40）年、高校生リーダーシップ・トレーニング・センター

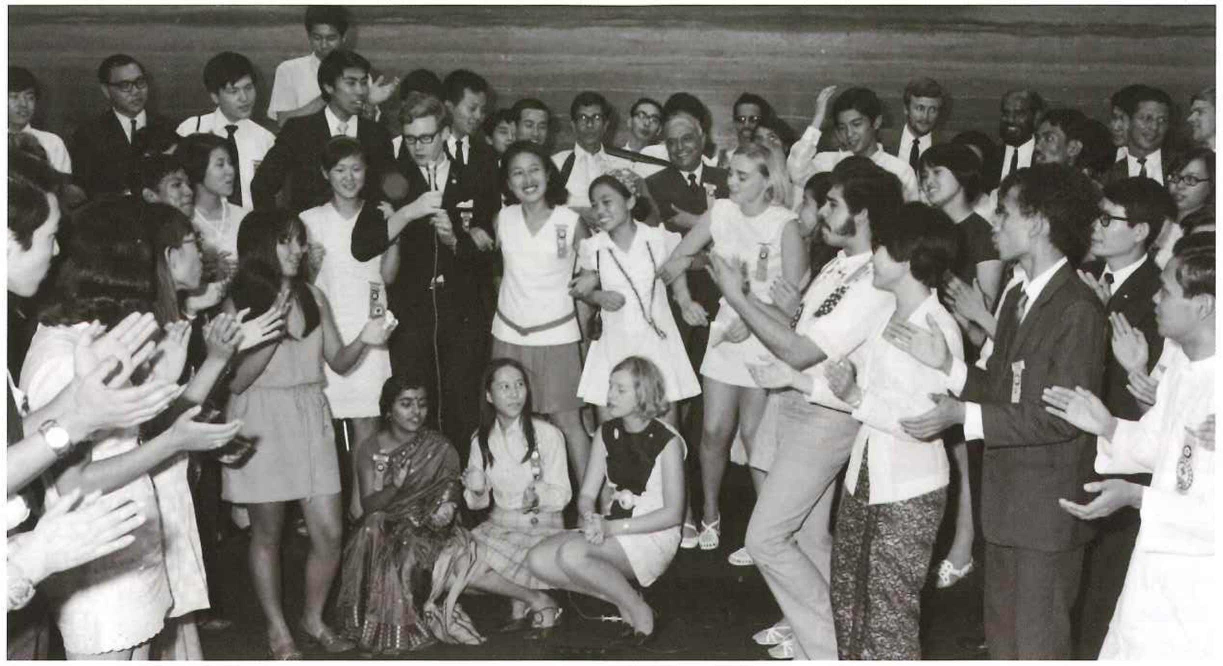
## アメリカ流を取り入れた新制度がスタート

1934（昭和9）年に東京で開かれた第15回赤十字国際会議にて、子どもたちにジュネーブ条約の原則を説く教育小冊子の発行を決議しました。しかし、1939（昭和14）年に、第二次世界大戦が開戦。決議の実行は停滞を余儀なくされます。

その後1945（昭和20）年に第二次世界大戦は終結。日本赤十字社は連合国軍総司令部（GHQ）やアメリカ赤十字社の指導の下、組織の再建を進めます。少年赤十字も1947（昭和22）年の学制改革を受け、高校生を含む「青少年赤十字」として制度を改めました。翌年には、第1回リーダーシップ・トレーニング・センター（集団生活による学びの場）を神奈川と岡山で開催。1954（昭和29年）には在日アメリカン・スクールの青少年団員との日米リーダーシップ・トレーニング・センターが開催されるなど、活動は大きな広がりを見せていきます。

1957（昭和32）年の第19回赤十字国際会議は、青少年にジュネーブ条約の普及を図るために加盟社が具体的行動を取るよう決議。これを受け、日赤は翌年から全国の指導者を対象に研究会を開催し、国際人道法教育に関する資料の作成・改訂を重ねました。そこには「赤十字の歴史と精神と組織」が生かされました。

# 1970年 国際交流事業の進展



東南アジア汎太平洋地域青少年赤十字国際セミナー（こんにちは'70）を日本で開催

こんにちは'70を起点に広がった国際交流は、現在も様々な形で脈々と受け継がれている。（2020年バヌアツ共和国の小学校で海外支援事業に参加する青少年赤十字のメンバーたち）

ネパール支援活動をテーマに制作されたスライド教材、「友情の井戸～ネパールに井戸を掘る一円玉募金活動を通して国際理解・親善を考える～」

井戸を囲むネパールと日本の子どもたち

## 初の大規模な国際イベント「こんにちは'70」

日本の青少年赤十字にとって初めての大規模国際イベントが、1970（昭和45）年の青少年赤十字国際セミナー「こんにちは'70」です。東南アジア・太平洋地域の18カ国から代表69人が集まり1カ月間交流を深めながら、青少年赤十字の課題について意見を交わしたこのイベント。2年の開催準備を経て、相互理解の促進に大きな成果を残しました。「こんにちは'70」の成功が、その後に続く国際交流の起点となったのです。

青少年赤十字の国際交流事業の実施数は着実に増加していき、国内外の高校生による合同リーダーシップ・トレーニング・センターの実施や、12カ国の青少年メンバーと国内の青少年代表が集った「はじめの一歩」など大規模なイベントも続きました。その後も活動は拡大し、1999（平成11）年度に国際交流を行った支部は、延べ28都府県に上りました。

また、全国の青少年赤十字メンバーが、日ごろの節約などで積み立てている「一円玉募金」で水衛生問題の解決を目的としたネパール赤十字社の飲料水供給事業の支援を行うようになったのは1984（昭和59）年。ハンドポンプ付き井戸や自然流下式簡易水道の整備を進めました。

- 1939年 第二次世界大戦始まる
- 1945年 第二次世界大戦終結
- 1946年 日本国憲法公布
- 1947年 学制改革
- 1948年 「青少年赤十字の手びき」作成
- 1948年 第1回リーダーシップ・トレーニング・センター開催
- 1950年 朝鮮戦争始まる
- 1959年 青少年赤十字活動資金制度制定
- 1960年 ベトナム戦争始まる
- 1964年 東京オリンピック開催
- 1970年 大阪万博開催
- 1970年 「こんにちは'70」開催
- 1975年 ベトナム戦争終結
- 1979年 アフガン侵攻始まる
- 1980年 イラン・イラク戦争始まる
- 1984年 ネパール赤十字社の飲料水供給事業に協力開始
- 1989年 昭和から平成へ
- 1989年 東欧革命 ベルリンの壁崩壊
- 1991年 湾岸戦争始まる
- 1995年 阪神・淡路大震災

2000年 ・・・ 1990年 ・・・ 1980年 ・・・ 1970年 ・・・ 1960年 ・・・ 1950年 ・・・ 1940年

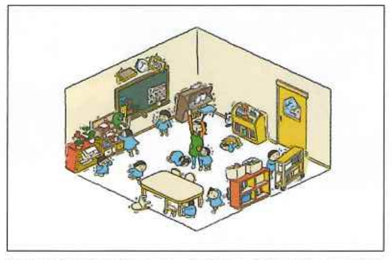
# 2000年 変化する社会課題

## 激動の時代に取り組むべき課題を見据え

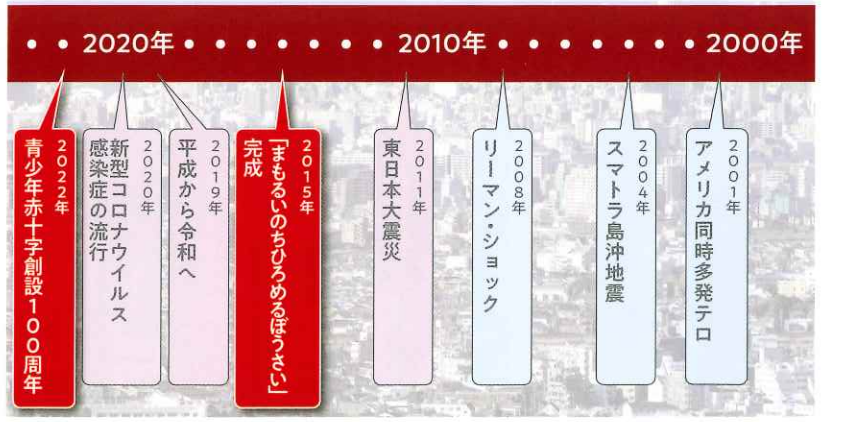
2000年代に入り、世の中は目まぐるしく変化していきます。2011(平成23)年3月には東日本大震災が起こり、日本赤十字社として取り組むべき新しい課題が生まれました。学校における実践的な防災教育に対するニーズの高まりを受け、2015(平成27)年に完成した、小中高生向けの防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」は、授業や研修会、講習会などで広く活用されています。

2020(令和2年)年から続く新型コロナウイルス感染症の流行で、さらに激動の時代となる中迎えた青少年赤十字創設100周年。時代とともに変化する社会課題に対応し、日本赤十字社の使命を果たすために、これからも活動は続きます。

青少年赤十字防災プログラム
「まもるいのち ひろめるぼうさい」
(小・中・高校生向け)



2018(平成30)年には、幼稚園・保育所向けの教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!」も発行




## 日本赤十字社 長期ビジョン

### 目指す姿と長期戦略
～創立150年に向けて～

日本赤十字社は、2027年5月1日の創立150年に向けて、「日本赤十字社長期ビジョン」を策定しました。時代と共に変化するこれからの社会課題やニーズに柔軟に対応し、日本赤十字社の使命を果たし続けていくために、将来目指す姿やそれを実現するための長期戦略、行動指針等を示しています。

#### 目指す姿

**国内外における人道支援活動の"要"となり、わが国の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字**

とりわけ青少年赤十字では、多様化が進む社会における人道の輪の拡大に取り組み、多様な価値観が誕生し「互いを尊重し、助け合う」社会を目指します。

**豊かな心をもった青少年の育成強化**

○これからの教育現場のニーズに即した「青少年赤十字」活動の再編
○「不登校」や「いじめ」等の学校が抱える問題解決の一助となる人道教育の展開
○地域社会とのつながりを体感できる新たな「青少年赤十字」活動の導入

#### 現場の声

青少年赤十字の態度目標
### 「気づき、考え、実行する」

岡崎市立上地小学校 校長
(前 岡崎市立矢作中学校 教諭)
**淺井 貞人**

私は青少年赤十字加盟校である岡崎市立矢作中学校に9年間在籍していました。青少年赤十字の活動としてアルミ缶回収などのリサイクル活動を全生徒参加で行い、また、生徒会を中心として高齢者養護施設でのゲームや本の読み聞かせなども定期的に行っていました。学級担任をしていた私も活動によく参加していました。

また、私はバレー部の顧問としても活動する中で、バレー部の部員たちに青少年赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」ことの重要性を伝えてきました。

東京オリンピック2020で活躍した石川祐希選手も、2008年に入部した生徒のひとりです。彼の中学時代、そしてその後の活躍を見るにつけ、「気づき、考え、実行する」ということを理解し、意識してくれていたのではないかと感じます。

青少年赤十字の態度目標や活動が、学年を問わずどのような場面でも活用できる素晴らしいものであることを私は身をもって経験しています。未来を生きていく子どもたちにとり、これからの時代は自分で考え選択することが一層問われるようになります。

私たちはこれからも青少年赤十字を応援していきます。



# 青少年赤十字創設100周年の活動をご紹介します！

青少年赤十字創設100周年では「未来のあなたへ、やさしさを。」をスローガンに掲げ、様々な活動メニューを展開しています。
全国の加盟校のメンバー、指導者や赤十字ボランティアの皆さまの活動により、青少年赤十字による人道の輪は確実に広がっています。
この100周年を機に一人でも多くのメンバーがやさしさや思いやりを持ち、未来のために今できることに気づき、考え、
次の100年を創り上げていくことに期待しています。

日本全国、世界の青少年赤十字メンバーの仲間たちや指導者と想いや活動を**つなぎ**ます。

## つなぐ Connect

加盟校が活動する際は、のぼりやバナーを掲げるほか、バッジの着用で活動を見える化します。各支部の寄せ書き旗や写真、動画でメッセージを伝え合い、SNSへ投稿をするなど、全国で想いをつなぎます。

100年前からつづく地域に根差した青少年赤十字活動。実践目標を基にこれからも**つづけ**ます。

## つづける Continue

実践目標ごとの活動を計画し、実行。その様子をSNSやホームページで紹介します。また、青少年赤十字に関する歴史を学びながら古いグッズを集め、経験者の話から活動への理解を深めます。

赤十字精神に基づき、人道の輪を広げ、新たな青少年赤十字の歴史を**つくり**ます。

## つくる Create

創設100周年のスローガン「未来のあなたへ、やさしさを。」について考え、"あなた"に手紙を送ります。その内容や、過程をSNSへ投稿し、全国のメンバーとつながることで活動の見える化を活気付けます。

## 100周年事業のオープニングイベントを開催

### 全国の中・高校生がオンラインで「つながり」「考える」

日本赤十字社の活動の一つである青少年赤十字(Junior Red Cross、以下JRC)は、今年5月5日に創設100周年を迎えました。これを記念して、「未来のあなたへ、やさしさを。」をテーマに、全国のJRC加盟校や日赤の都道府県支部において100周年事業の活動を実施しています。

そのオープニングイベントを5月5日にオンラインで開催。日ごろJRC活動を行う高校生、指導者の先生らが登壇し、参加した全国の中・高校生やその指導者450名とともに、JRCの「過去・現在・未来」について、100年の歴史を振り返りながら、未来に向けて今できることを一緒に考えました。

登壇者の岡田結さん
(学校法人身延山学園　身延山高等学校3年生)

**イベントハイライト**

### JRC指導者が語る青少年赤十字の今

いのちの大切さや災害への備えなど「防災」について、松本先生が解説。東日本大震災での経験をもとに、「災害への備えを広める活動、つなげる活動にも取り組んでほしい」と語りました。

また、「人道」について解説した根本先生は、「世界に、日本に、身の回りに色々な人がいて、色々なことが起きていること、苦しんでいる人がいることに気づこう」とコメントしました。

### ゲストによるエールと、JRCのこれから

パイロットになりたいという子どもの頃からの夢を叶え、エアレースのワールドチャンピオンとして活躍する室屋さんが、インタビュー映像を通じて、夢や社会貢献活動について語りました。

「まずは自分自身のことを知り、好きなことを追いかけてほしい。みなさんが今、未来に向けて力を蓄えていることは、社会に出る瞬間にきっと花開く。」とエールを送りました。

また、松尾先生とJRCメンバーの岡田さんの対談では、日ごろの活動のことや将来の夢について松尾先生がアドバイス。これから歩みたい夢についてのトークセッションを行いました。

❶JRC指導者　松本光司先生
(福島県青少年赤十字賛助奉仕団)

❷JRC指導者　根本裕之先生
(学校法人松韻学園福島高等学校教諭)

❸室屋義秀さん
(赤十字飛行隊メンバー)

❹左：JRC指導者 松尾一志先生
(佐賀県立神埼高等学校教諭)
右：岡田結さん

### 参加者の声

鹿野智裕さん(長崎県)

いつ起こるかわからない地震に対してハザードマップや避難経路の確認など、自分だけでなく家族や周りの人にも伝えて、大切な人の命を守れるようになりたい。

平田真友さん(京都府)

自分が何をしたいか、ではなく、相手が何をしてほしいか "の話が印象的だった。校内の掲示板で、JRCの活動をみんなに広めていきたい。

佐々木春姫さん(埼玉県)

大人になったらぜひボランティア活動に参加してみたい。JRCの「気づき・考え・実行する」を、身の回りのことから意識して生活したい。

### つながる ダンスプロジェクト
～踊りながらみんなとつながろう～

6月1日からスペシャルオリンピックス日本の公式応援ソングであるGLAYの「YOUR SONG feat. MISIA」に合わせて、全国・海外の青少年赤十字メンバーが仲間たちとダンスを踊りSNS等に掲載し映像で「つながり」ます！

是非ご覧ください

博愛のこころを未来へ

200 1822 》2022 佐野常民 生誕200年

# 「博愛のこころ」の原点・佐賀
# 日本赤十字社の創設者 佐野常民を訪ねて

**佐野 常民**（さの つねたみ）

1822（文政 5）年～1902（明治 35）年

佐賀市川副町（かわそえまち）早津江生まれ。医者を志し、各地で医学や蘭学を学んだ後、佐賀藩の理化学研究を行う精煉方（せいれんかた）では中心的役割を担った。西南戦争を機に日本赤十字社の前身となる博愛社を設立し、日本赤十字社の父と呼ばれる。

協力
○佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館
○佐賀城本丸歴史館
○佐賀県医療センター好生館
○博愛の里こども園
○大阪大学適塾記念センター
○日本赤十字社佐賀県支部
○赤十字情報プラザ

今から200年前の1822（文政5）年、佐野常民は現在の佐賀市川副町（かわそえまち）に生まれました。

常民は、佐賀藩の人材教育と先駆的な近代化への取り組みが生んだ逸材で、医者でありながら技術者としても偉大な功績を残した異色の経歴の持ち主です。さらに、明治維新後は政府要人としても活躍し、博愛社設立、日本美術の保護活動などにも力を注ぎ、三面六臂の人生を送りました。

そんな常民が、怒涛の幕末維新期を経てたどり着いた考えとは、なんだったのでしょうか？

常民生誕200年を機に、ゆかりの地・佐賀を訪ねました。

## 川副（かわそえ）の地に残る常民のレガシー

佐野常民は、幕末から明治維新にかけて活躍した佐賀藩出身の偉人、「佐賀の七賢人」のひとりです。当館は、常民の生誕地のすぐそばに位置し、また、その発展に力を注いだ三重津（みえつ）海軍所跡に隣接しています。

常民の遺した数々の功績は、近代日本の発展の礎になったと言える偉大なものばかりです。なかでも、日本赤十字社の創設については言うまでもありません。

佐賀藩時代に学んだ医の知識から得たであろう「医は仁術」という倫理観。上方や江戸での蘭学修行、パリやウィーンでの2度の万博参加による西洋文明の実見。ジャンルを越えて多岐にわたる活動をした常民の人生は、一見すると混乱の時代に翻弄されたとも言えますが、その経験はすべて、日本に赤十字の精神、「博愛のこころ」を遺すという点を指していたのではないかと思います。

この地域の近隣の子どもたちは、歴史館で幼い頃から常民について学び、博愛のこころに触れて育ちます。我々の使命もまた、常民の人生を紐解き、その功績と博愛のこころを未来へと伝えていくことだと考えます。

常民生誕200年を機に、「人道」とは、「博愛」とは何なのかを問い直すことで、さらに多くの人に、常民の遺したこころが受け継がれてほしいです。

佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館
館長 **諸田 謙次郎**さん

「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」の詳細は P29をご覧ください。

# 「医者として」

藩医になるため勉学に励み、
佐賀藩主の命で蘭学修行に出た
少年〜青年期。

## 蘭学修行のため、各地に遊学 佐賀藩主鍋島直正の目にとまる

常民が医者を志した原点は、生家から養子に出された9歳のころまでさかのぼります。佐賀藩士下村家の五男として川副町(かわそえまち)に生まれた常民ですが、藩医を務めていた佐野家へ養子に行くことになり、医者を継ぐために医学の勉強を始めるのです。常民は佐賀藩校の弘道館では一、二を争う秀才として頭角を現しました。

当時は若き藩主・鍋島直正により、優秀な人材を育成して藩の要職に登用する教育改革が行われていました。常民も、この直正の方針によってその後、20代まで各地の有名塾へ遊学することになります。江戸、大阪、京都の私塾を渡り歩き、西洋医学を中心に物理、化学、兵学などさまざまな最新の蘭学を学び、優秀な同志たちと交流を持ちました。

佐賀藩ではその後、全国で初めての医師免許試験制度である「医業免札制度」が始まりますが、常民も32歳の時に免許が与えられ、医者として登録されています。

しかし、時を同じくして常民は、直正より藩の理化学研究所である精煉方(せいれんかた)に勤めるよう命を受け、その後は医者としてではなく、技術者として藩の近代化実現にその知識と経験を発揮していくことになるのです。

### 緒方洪庵が説いた「扶氏医戒之略」

「扶氏医戒之略」
(大阪大学適塾記念センター所蔵)

適塾は当時の姿のまま、
現在も一般公開されている

常民は1848(嘉永元)年、緒方洪庵が開いた大阪の適塾に入門します。

適塾は、福沢諭吉も学んだ蘭学塾で、常民はここに約1年間通い、洪庵の教えを受けました。

洪庵の教えで有名なもののひとつに、「扶氏医戒之略」があります。洪庵は、当時最新の医療の知識を紹介するために、ドイツの医師・フーフェラントの著書を日本語訳して『扶氏経験遺訓』(30巻)を出版しました。その巻末にある「医戒の大要」を、医者に対する戒めとして、12カ条の訳文として整理したものが「扶氏医戒之略」です。その第一条には「医の世に生活するは人の為のみ、おのれがためにあらずということをその業の本旨とす」とあり、医の倫理を説いたものとして今も医療関係者に影響を与えています。

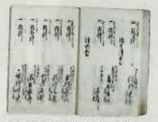
残念ながら適塾での常民の様子を伝える史料は残っておらず、洪庵の教えが常民にどのように伝えられたのかはわかっていません。しかし、この適塾での学びは、その後の常民の人生に少なからず影響を与えたことでしょう。

取材協力
大阪大学適塾記念センター 准教授
松永 和浩さん

### 医と佐賀藩

佐賀藩では、十代藩主・鍋島直正が、藩政改革と近代化に取り組み、全国に先駆けて西洋医学を取り入れていました。直正は、日本初の医師免許制度とされる、医業免札制度を創設し、また、医学教育機関として、好生館や蘭学寮を設立するなど、医療技術の向上と人材育成に努めました。
蘭方医、伊東玄朴(現佐賀県神埼市出身)の進言により、天然痘予防のための種痘(ワクチン)を嫡子直大に接種して、藩内に普及させる範としたのも直正です。
常民はこうした直正の意向を受け、医学をはじめ先進的な知識を豊富に得る機会を与えられました。

直正公嗣子
淳一郎君種痘之図
(佐賀県医療センター好生館蔵/佐賀県立佐賀城本丸歴史館寄託)



医業免札姓名簿
(佐賀県医療センター好生館蔵/佐賀県立佐賀城本丸歴史館寄託)



### 今も地域に根付く行事「佐野祭」

常民の生誕地には、現在、日本赤十字社創立50周年の際に整備された記念碑が建立されています。常民の命日である12月7日にこの場所で毎年開催されるのが、地域の恒例行事「佐野祭」です。
佐野祭には中川副(なかかわそえ)小学校の児童も参加し、「青少年赤十字のちかい」を唱和します。今年は生誕200年の記念モニュメントが新設されます。また「佐野祭」と同時に行われている「博愛フェスタ」では、今年は常民が詠んだ漢詩を薩摩琵琶で演奏する企画など、いつもより規模を拡大して行う予定です。

常民の生誕地に建つ記念碑。学校全体で地域清掃に取り組む中川副(なかかわそえ)小学校では、6年生になるとこの記念碑の清掃を担当できるとあって、児童の間でもこの記念碑は特別な場所となっている

# 「技術者として」

医者の道から、精煉方(せいれんかた)へ転身。
日本初の実用蒸気船の建造に成功し、
幕末の科学技術発展に尽力した。

三重津海軍所の様子を描いた陶板は、中川副公民館で見ることができる

凌風丸の船体は木造。クスノキや松が使われ、船底は汚れを防ぐために銅板被覆されていた

凌風丸模型(S=1/40)

## 西洋式海軍技術導入の象徴 実用蒸気船「凌風丸(りょうふうまる)」

常民が直正から転向を命じられた「精煉方(せいれんかた)」とは、今で言う理化学研究所のことです。

佐賀藩は当時、長崎の港を警備する役割を隣藩の福岡藩と1年交代で担っていました。幕末の混乱期において、警備増強の必要性を察知した直正により、西洋の科学技術の研究開発を目的に発足したのが「精煉方(せいれんかた)」なのです。常民は、精煉方(せいれんかた)を統括する立場として務めを果たしました。この時、医者から〝武士〟になる常民へ、直正から新たに「栄寿左衛門」という名前を授かっています。

常民は、遊学時代に培った人脈を存分に利用し、4人の技術者を他藩からスカウトすることに成功。蒸気船の製造を目標に、設計図もない中で洋書を翻訳し研究を重ね、苦労の末に模型を完成させます。その後、幕府の施設である長崎海軍伝習所に派遣され、オランダ人教師からさらに具体的な造船術や航海術を学ぶ機会を得ます。この派遣には、勝海舟も参加しており、常民と海舟は同じ場で知識を習得していきました。

その後、長崎海軍伝習所の閉鎖に伴い、常民の生家の目と鼻の先にある早津江川の沿岸に佐賀藩の「三重津(みえつ)海軍所」が設置されます。常民は42歳の時に、この海軍所で同志たちと共に、念願だった国産初の実用蒸気船「凌風丸」の建造に成功するのです。

特集◎2

日本赤十字社の創設者 佐野常民を訪ねて

# 「赤十字との出会い」

藩命を受けて訪れたパリ万博で、創設されたばかりの赤十字を知る。

## 敵味方の差別なく救護する博愛のこころに感銘

長く佐賀藩の近代化のために精煉方(せいれんかた)で尽力した常民ですが、45歳の時に転機が訪れます。幕府再興のためヨーロッパ外交を目論んでいた最後の将軍である徳川慶喜は、1867(慶応3)年、パリ万国博覧会に使節団を派遣することを決めます。各地に参加者を募りましたが、手を挙げたのは佐賀藩と薩摩藩のみでした。この一行に常民が参加したことが、その後の常民の人生に大きな影響を与えます。

博覧会では藩の特産物として有田焼や蝋(ろう)、海産物、和紙などを展示販売しましたが、この会場で常民が出会ったのが、当時創設されたばかりの国際的救護組織「赤十字」だったのです。

常民は、この赤十字との出会いについて「パリ万博で赤十字という展示があった。敵味方を選ばず戦争で負傷した者を救って治療することを務めとしていた」と語っています。この時に赤十字の理念や組織の在り方に触れたことが、後の大きな行動へとつながっていきます。

## 万博男と呼ばれた常民

パリ万博佐賀藩派遣団一行。前列の中央が常民

ウィーン万博に出展した大提灯には龍が描かれている

常民は、生涯で2度の万博に参加しますが、1度目のパリ万博は西洋の高度な技術や製品の数々の前に、あまり成果はあげられなかったと言われています。しかし、その経験を生かして臨んだ2度目の万博参加となったウィーンで、ヨーロッパの人々の目を引く日本の伝統的な特産品や美術品を出展。その反響は大きく、西洋でのジャポニズム人気に拍車がかかることになりました。帰国後に常民がまとめた報告書は16部門にも及び、これが日本近代化の指針のひとつとなったのです。

# 「2つの戦と博愛社」

2つの戦による悲しみが、常民の博愛のこころを突き動かす。博愛社設立、そして日本赤十字社の誕生。

## 人道とは何か 明治の世に結実した常民の生き様

パリ万博から戻った常民は活躍の場を明治政府に移し、1873(明治6)年には再びウィーン万国博覧会へ事務副総裁として派遣されます。

1874(明治7)年、ウィーン万博で常民が不在の折、郷里の佐賀では不平士族による「佐賀の乱」が勃発。これにより、旧知の仲である江藤新平、島義勇が処刑されます。後に常民は、知友を追悼した七言絶句を詠み、その深い悲しみをあらわにしています。

佐賀の乱から3年後の、1877(明治10)年。常民が55歳のとき、日本で起こった最後の内戦「西南戦争」が勃発。常民は、その惨状を目の当たりにし、敵味方を選ばず傷病者を救護するための「博愛社」の設立に奔走します。博愛の考え方は政府に受け入れられず、一度は不許可になりますが、政府軍の総督・有栖川宮熾仁親王(ありすがわのみやたるひと)へ直訴。嘆願が許可された際には涙したと伝えられています。かつて医学で学んだ博愛のこころと、パリ万博で出会った赤十字の精神が結実したことで、今に続く日本赤十字社の歴史が始まるのです。



# 「波乱の人生、たどり着いた境地」

文明開化といえば、人は皆、法律の完備や精巧な機械の発達と言うが、私は赤十字が盛大に発展することこそその証と考える

1882(明治15)年 博愛社総会での講義より

日本赤十字社佐賀県支部の常民像

## 未来へとつなぐ博愛のこころ

博愛の里こども園 園長 岡﨑和久さん

川副(かわそえ)は、子どもたちに常民の博愛のこころが脈々と受け継がれている町だと思います。私たちの園は2つの園が合併していますが、前身のひとつである中川副(なかかわそえ)幼稚園では1959(昭和34)年の認可当時から、常民の博愛精神を園の指導方針に取り入れていました。当時から歌い継がれる園歌にも〝ここでうまれた さのはくの せかいをすくう せきじゅうじ〟という一節があるほどです。現在の当園もその考えを引き継ぎ、まだ小さな子どもたちには、難しいことを教えるというより、「進んで考え」「仲良く思いやり」「明るく元気に」という、博愛のこころを養うための土台となるような日々を過ごしてほしいと願っています。

ここから巣立った園児たちが中川副(なかかわそえ)小学校での青少年赤十字の活動に熱心に取り組む姿を見るたびに、博愛のこころがしっかりとこの地の子どもたちに息づいていることを実感します。

生き生きと元気に過ごしながら博愛のこころを養う

園で行われた防災教室の様子

## 佐野常民略年譜

| | | |
|---|---|---|
| 文政5年 | (1822) | 佐賀藩士下村充贇(みつよし)の五男として生まれる。 |
| 天保3年 | (1832) | 親戚で藩医の佐野常徴(孺仙)の養子となる。 |
| 5年 | (1834) | 弘道館に入学し儒学を学ぶ。 |
| 9年 | (1838) | 江戸で古賀侗庵(とうあん)に入門。 |
| 10年 | (1839) | 佐賀に帰り、松尾塾で外科術を、弘道館で漢学を学ぶ。 |
| 弘化3年 | (1846) | 京都で広瀬元恭の時習堂に入門、蘭学・理化学を学ぶ。 |
| 嘉永元年 | (1848) | 大阪で緒方洪庵の適塾に入門。 |
| 2年 | (1849) | 紀伊で華岡青洲の春林軒塾に入門。江戸で伊東玄朴の象先堂塾に入門。 |
| 4年 | (1851) | 京都から4人の技術者を伴い帰藩。 |
| 6年 | (1853) | 藩に設置された精煉方(せいれんかた)で統括的役割を担う。 |
| 7年 | (1854) | 藩より医業免礼(医師免許／外科)をうける。 |
| 安政2年 | (1855) | 長崎海軍伝習所で海軍術を学ぶ。 |
| 5年 | (1858) | 三重津海軍所が設置される。 |
| 慶応元年 | (1865) | 三重津海軍所で国産初の実用蒸気船「凌風丸」が完成。 |
| 3年 | (1867) | パリ万博参加。 |
| 明治6年 | (1873) | ウィーン万博に事務副総裁として参加。 |
| 7年 | (1874) | 渡欧中に佐賀の乱起こる。 |
| 10年 | (1877) | 西南戦争起こる。大給恒(おぎゅうゆずる)らと博愛社を設立。 |
| 12年 | (1879) | 美術団体「龍池会」(日本美術協会の前身)をおこし、会頭となる。 |
| 19年 | (1886) | 日本政府がジュネーヴ条約(赤十字条約)に加入。 |
| 20年 | (1887) | 博愛社を日本赤十字社と改称、初代社長となる。 |
| 35年 | (1902) | 12月7日、東京・三年町(現在の千代田区)の自宅で永眠。 |

### 佐野常民 生誕200年記念企画展

佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館で開催。

会期：2022(令和4)年 11月3日(木・祝)～12月11日(日)

詳細はP29をご覧ください。

赤十字WEBミュージアムでも佐野常民の貴重な史料を展示

「赤十字WEBミュージアム」はこちら

## 令和4年度　予算概要

「長期ビジョン・第一次中期事業計画の着実な推進」「ウィズ・ポストコロナへの的確な対応」を基本的な考え方と位置づけ、今年度もさまざまな事業を展開します。
令和4年度は、新型コロナウイルス感染症への対応を当面の最優先事項として取り組むとともに、同感染症に対する新たなニーズに重点的に対応していきます。

### 一般会計

※上記の数字は端数を切り捨てているため、各項目の合計額やパーセンテージの積算が総合計と一致しないこと。

### 特別会計

**令和4年度予算**

#### 医療施設

診療報酬を主な財源とする赤十字病院などの運営にともなう収入・支出です。

収入　1兆1,393億2,243万3千円
支出　1兆1,515億9,515万5千円
**差引額　-122億7,272万2千円**

#### 血液事業

医療機関への血液製剤の供給による収入を主な財源とする赤十字血液センターの運営にともなう収入・支出です。

収入　1,636億1,225万5千円
支出　1,612億6,077万2千円
**差引額　23億5,148万3千円**

#### 社会福祉施設

措置費収入、介護保険事業収入などを主な財源とする各種社会福祉施設の運営に伴う歳入・歳出です。

歳入　198億5,200万円
歳出　156億1,511万1千円
**差引額　42億3,688万9千円**

※ 差引額は千円未満を切り捨てているため、差は一致しないこと。



## 令和3年度　決算概要

令和3年度、日本赤十字社は一般会計と3つの特別会計（医療施設、血液事業、社会福祉施設）をあわせて総額1兆5,000億円を超える予算規模の事業を展開しました。
このうち、個人・法人の皆さまからいただいた会費や寄付金を主な財源として実施した活動にかかる歳入歳出は以下のとおりです。

### 一般会計

※上記の数字は端数を切り捨てているため、各項目の合計額やパーセンテージの積算が総合計と一致しないこと。

### 特別会計

**令和3年度決算**

#### 医療施設

診療報酬を主な財源とする赤十字病院などの運営にともなう収入・支出です。

収入　1兆2,225億6,743万1千円
支出　1兆1,038億6,212万6千円
**差引額　1,187億530万4千円**

#### 血液事業

医療機関への血液製剤の供給による収入を主な財源とする赤十字血液センターの運営にともなう収入・支出です。

収入　1,659億5,209万8千円
支出　1,545億6,809万8千円
**差引額　113億8,400万円**

#### 社会福祉施設

措置費収入、介護保険事業収入などを主な財源とする各種社会福祉施設の運営に伴う歳入・歳出です。

歳入　191億7,412万2千円
歳出　146億8,953万7千円
**差引額　44億8,458万4千円**

※ 差引額は千円未満を切り捨てているため、差は一致しないこと

**令和3年度収支決算の特殊要因▶**・新型コロナウイルス感染症対応のための医療機関に対する補助金が交付されました（約1,200億円）

# 皆さまからの支援でできたこと

**令和3年度に皆さまからいただいたご支援をもとに実施することができた活動の一部を、ボランティアの声と共にご紹介します。**

## 社会課題 1

### 災害や紛争から人々が守られる社会づくり

地震や台風、大事故などが発生した際、日本赤十字社は救護班の派遣、医療救護活動や救援物資の配布、こころのケア、ボランティア活動を行います。また、世界各地で人道危機に苦しむ人々へ、192の国と地域に広がる赤十字のネットワークを生かして支援活動にあたります。

**こんなことができました**

#### 感染症まん延下における救護活動

令和3年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症まん延下での救護活動が求められ、被災者及び救護班要員の感染症対策を徹底した活動を実施しました。

7月には、静岡県熱海市において大規模な土石流被害が発生。発災直後から救護班を派遣し、避難者の健康観察を行うとともに、こころのケア要員を派遣し、被災者の声を聴くなどの寄り添う活動を実施しました。また、8月には各地で河川の氾濫や土砂災害が発生しました。特に被害が大きかった佐賀県においては、ボランティアの看護師等を避難所へ派遣し、避難所のアセスメント等を行うとともに、巡回訪問による被災者の健康観察を行いました。

令和3年7月1日からの大雨による災害で熱海市内の避難所で活動する救護班要員（静岡県）

## 社会課題 2

### 偏見や差別を防止する啓発活動

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、同感染症に対する不安や恐れから、周囲への偏見や差別を引き起こしました。日本赤十字社は、偏見や差別を防止するための啓発活動にいち早く取り組みました。

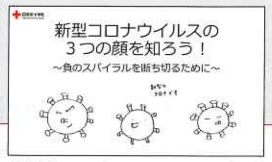
**こんなことができました**

#### サポートガイド作成と、絵本アニメーションによる啓発

新型コロナウイルス感染症による「病気そのもの」、「不安と恐れ」、「嫌悪・偏見・差別」という3つの負のスパイラルを断ち切るための対応をまとめた一般向けサポートガイド「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」を作成・公開しました。これをもとに青少年赤十字向けの教材も作成し加盟校を中心に配布。出前授業を開催するなどの取り組みを行いました。

また、ガイドをさらにわかりやすい絵本アニメーション「ウイルスの次にやってくるもの」として公開。令和4年3月31日時点での再生回数は257万回を超え、広く国民に対し、偏見や差別を防止する啓発活動につながりました。

絵本アニメーション
「ウイルスの次にやってくるもの」




「新型コロナウイルスの 3つの顔を知ろう！
～負のスパイラルを断ち切るために～」

**ボランティアの声**

ガイドを配りながら地域の人たちに声を掛けて励まし合いました。近所の人が私の顔を見て「ほっとした」と言ってくださり、私も嬉しくなりました。

京都市南区赤十字奉仕団など



**ボランティアの声**

災害時に、日本赤十字社が行う災害救援品の配付や、派遣した救護班への現地の道案内等のサポートも「赤十字防災ボランティア」の活動の一つです。決して特別なことではなく、誰かのために今、自分にできることを一生懸命取り組んでいるだけです。活動時に着用するベストに印されたこの"赤十字マーク"は、人々から信頼されるマークであることを改めて感じました。今後も真摯に取り組んでいきたいです。

静岡県支部
赤十字防災ボランティア

**こんなことができました**

#### ハイチ地震被災者救援

令和3年8月14日にハイチ共和国を襲った大地震は、死者2200人以上、負傷者12000人以上、行方不明者300人以上の被災者を出す大きな災害となりました。ハイチ赤十字社と国際赤十字は、地震の発生直後から緊急救援活動を開始。現地では医療施設が被災したため、手術・入院機能をもつ臨時のテント型野外病院（病院ERU）の出動が決定されました。日本赤十字社はハイチ赤十字社や国際赤十字が現地で行う救援活動に対する資金援助とともに、同年10月初旬から12月まで、この病院ERUに日本赤十字社の薬剤師2人と看護師2人を継続して派遣し、被災した人びとのいのちと健康を守りました。

日本赤十字社看護師（左端）が担当した少女（3歳）と母親。少女は地震で倒れた壁の下敷きになって右腕を失い病院 ERUで皮膚移植手術を行った（ハイチ共和国）©フィンランド赤十字社

**ボランティアの声**

私の出身である小さな村は地震や津波、洪水などの災害に見舞われています。日本赤十字社とインドネシア赤十字社の事業で、地域防災チームが結成され、私もその一員になりました。災害はいつどこで起こるかわからないからこそ、地域ぐるみの備えの重要性を痛感します。

©インドネシア赤十字社

インドネシア赤十字社
マラン県支部
地域防災ボランティアメンバー
シディック・ファジャール ノルチャイヨさん

## 社会課題 3

### 互いを思いやり、助け合い、尊重し合う社会づくり

社会の多様なニーズやライフステージに応じ、事故防止やけがなどの応急手当を学ぶ「救急法」等、5つの講習を普及しています。

また、地域共生社会の実現に向け、地域包括ケア活動の推進に取り組んでいます。

**こんなことができました**

#### 感染症まん延時にも適応した新たな講習展開

日本赤十字社では、事故防止や傷病者の救命処置・応急手当などを学ぶ「救急法」、水の事故防止や溺れた際の救助方法・手当を学ぶ「水上安全法」、雪上における事故防止や救助方法・手当を学ぶ「雪上安全法」のほか、健やかな高齢期を過ごし、支援するための知識と技術を学ぶ「健康生活支援講習」、子どもの看病や事故予防・応急手当を学ぶ「幼児安全法」の5つの講習を普及しています。

令和3年度も新型コロナウイルス感染症のまん延が続く中、講習実施要件の見直しを図るとともに、感染対策を講じた講習やオンラインの活用により、講習普及に取り組みました。

**ボランティアの声**

平成11年に水上安全法指導員の資格を取得し、現在に至るまで水上安全法の教えを守りながら普及に努めています。今後は、水上安全法のさらなる普及と推進に努めるとともに、全国の水上安全法指導員のスキルアップ、また、次代を担う指導員を育成にも貢献していきたいと思っています。

京都府支部
水上安全法講師・救急法指導員
公益財団法人
京都踏水会京都踏水会水泳学園
学園長
浅井久照さん

感染対策を講じた
心肺蘇生の体験（埼玉県）

# 支援者の声 わたしも赤十字

**赤十字にはさまざまな形で赤十字の活動に参加する支援者がいます。全国の支援者を、温かいメッセージと共にご紹介します。**

## 震災から始まった赤十字との絆

### 伊勢(いせ) みずほさん

新潟県新潟市／44歳

#### どんな時でも困難に立ち向かう姿に感動

私が赤十字さんとのご縁をいただいたのは、東日本大震災がきっかけです。当時、BSN新潟放送アナウンサーからフリーに転身していた私は、地震直後から、宮城県仙台市にある私の実家周辺の様子や被災地での炊き出しの活動をブログで発信していました。それが新潟県支部の目にとまったことで声をかけていただき、「しんちゃんのランドセル」という被災の様子を伝える絵本の制作に携わることになったのです。

私が被災地の取材で出会ったしんちゃんとその家族、幼稚園を支部とつないだことで関係が深まり、完成した絵本をもとにした動画ではナレーターを務めるなど、ボランティア活動にも従事しました。これらの活動を通じて知った、赤十字社職員の強く、温かく、優しい行動には感動を覚えました。どんな時でも、困っている人たちのために困難に立ち向かう赤十字社職員の姿は、私の憧れです。

#### 温かい手を差しのべてくれる社会のために

私自身、大病を患った経験があり、苦しいとき、困ったときにSOSを発することの大切さを身に染みて感じています。SOSを出しやすく、誰かが温かい手を差しのべてくれる社会を赤十字さんと作っていければという思いで、支援を続けています。

近年では、新潟県支部が制作した2つの動画のナレーションも担当しました。新型コロナウイルス感染症による差別等の負の連鎖を断ち切るために作成した動画、そして東日本大震災から10年の節目に、備えるきっかけとなることを願い作成した動画です。どちらの動画にも思いが詰まっていますので、ぜひ多くの人にご覧いただきたいです。

自身が制作に関わった絵本「しんちゃんのランドセル」の読み聞かせをする伊勢さん

絵本「しんちゃんのランドセル」に伊勢さんのナレーションを加えた動画

新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～

伊勢さんがナレーションを担当した3つの動画はYouTubeで視聴することができる

東日本大震災から10年『過去から未来へつなぐ』

## 穏やかで幸福な夫婦の道のりは赤十字の思想と共に

### 亀谷(かめや) 恵美子(えみこ)さん

宮城県仙台市／79歳

#### JRCで触れたアンリー・デュナンの考え

私は昭和34年、宮城県第三女子高等学校に入学と同時にJRCに入りました。漠然とした赤十字への憧れと、何か役に立つことに関わりたいという思いからでした。JRCの歌『空は世界へ』は、今でもふと口ずさむことがあります。

JRCでは、長町乳児院や銀杏町保育所、東仙台にあった児童養護施設「天使園」の訪問のことをよく覚えています。そして何よりも赤十字思想を確立したアンリー・デュナンの名前と考えに触れたことが今でも大きな財産となっているように思います。

#### 世界につづく空の下で一人ひとりの幸せを願う

19年前に亡くなった夫との出会いも赤十字でした。高校卒業後、職場の先輩に紹介されて宮城県青年赤十字奉仕団(青奉)を訪ねた際、穏やかな笑みで挨拶をしてくれた委員長が後に夫となる亀谷博昭さんだったのです。

夫は戦後10年でまだ貧しかった時代からJRCの活動をしていました。その夫が高校生のころに赤十字が100周年を迎え、記念行事に携わったそうですが、奇しくも今年、JRCが100周年を迎えることに不思議な縁を感じています。

夫は宮城野中学校、仙台一高と活動を続け、河北新報へ入社後、政治家へ転身しました。『空は世界へ』で歌われるように、広い空、皆兄弟のように分け隔てなく人間関係を築いてきた夫の「一人ひとりの幸せを願って」という政治信念、そして私たち夫婦の人生には、赤十字思想が生きていると思います。

点訳サークルで盲学校の寄宿生と利府町加瀬沼へ。盲学校には読書会で毎週訪問した

毎年春秋 2回訪問していた寒風沢分校にて。児童とゲームや山菜採りを楽しんだ

宮城県青年赤十字奉仕団結成20周年の記念写真。新しくなった支部の前で

特集◉3

# ウクライナ危機での人道支援 ～世界の赤十字が取り組む活動状況～

## 紛争に巻き込まれた人々のために赤十字が、できること

ウクライナ東部のマリウポリは、クリミア半島とロシア・ロストフ州との間に位置し、今般の紛争による戦闘激戦地となっていました。4月1日以来、赤十字国際委員会(ICRC)はマリウポリの市民を救出するため、昼夜を問わず市内に入ろうと試みていて、ようやく交渉が成立した4月5日、ICRCはマリウポリに隣接する都市ベルジャンシクから、1,000人以上の避難者が乗るバスと自家用車の車列を、約200キロ離れたザポリージャまで先導しました。バスに乗った避難者の多くは女性、子ども、高齢者で、ペットを連れた方も多く、犬や猫、小鳥、カタツムリを連れている人も。避難者の中には家族をマリウポリに残し独りぼっちで乗車した14歳の少女の姿もありました。

避難者を乗せたバスと自家用車をザポリージャに先導するICRC車両

スロバキアの「チャイルド・フレンドリー・スペース」で遊ぶウクライナ避難民の子どもたちと赤十字ボランティア



## 世界に広がる支援の思い…国際赤十字が一丸となって挑む

ICRCチームには、地雷や不発弾など放置された武器を扱う専門家や医師も含まれています。車列は、武器が残留した危険地域を通るため、トイレ休憩の際には舗装されている場所だけ歩くように注意を喚起しました。ICRCは、マリウポリの人々を安全に避難させるため、そしてマリウポリ市内に人道支援を届けるため、紛争当事者と交渉しましたが、なかなかセキュリティー上の条件が満たされず、目と鼻の先の場所で足止めされたままの状態がしばらく続きました。

2014年以来、8年にわたり続くウクライナ紛争で犠牲となっている人々を支援してきたICRC。日赤は、2022年2月から激化した紛争の被災者支援のためICRCと国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)の緊急救援アピール(資金援助要請)に対して、両方に18億5千万円ずつ、合計37億円の資金援助を実施(令和4年5月31日時点)。この援助にはみなさまから寄せられた「ウクライナ人道危機救援金」が活用されています。

防空壕(ごう)や地下鉄の駅に隠れている数千人の人々のために食料と生活必需品を準備するウクライナ赤十字社。赤十字ボランティアも活躍

イルピンで負傷した人々に応急手当てを施すICRCスタッフ

**速報**

## 紛争激化以来400万人以上を支援するウクライナ赤十字社

※令和4(2022)年6月2日時点

### 物資支援

衛生用品や食料、飲料水、医薬品などの命をつなぐ物資をはじめ、生活用品、子どものための食品や衣類、衛生用品など16,275トン以上に及ぶ支援物資をウクライナの各地域に配付しています。ウクライナ中部にあるヴィーンヌィツャでは、ウクライナ赤十字社が救援物資の国内拠点倉庫の一つを運営し、ウクライナ各地へ随時発送しています。

### 避難支援

これまで自力での避難が困難な人々を中心に220,488人の避難支援が行われました。ウクライナ赤十字社の緊急救援対応チームは、2日間で合わせて15人の重病患者を他地域に避難させました。特に激しい紛争が起きているウクライナ東部での避難支援は簡単ではありませんが、現地赤十字スタッフやボランティアは懸命に人道支援を続けています。

### 救急法(応急手当)研修などの支援

これまで、避難民やボランティア52,750人に対して救急法の指導、1,171人に対して地雷知識などの危険回避教育等、危機管理に関する支援を実施。対面講習に参加できない人々のために、オンライン形式の教材も用意し、救急法を広めています。ひとりでも多くの人が自分や身近な人を守れるように、このような救急法に関する支援が続けられています。

### こころのケア

これまで合計約140のこころのケア活動(イベント形式)が開催され、16,225人以上が参加。ウクライナ西部、ウジュホロドの避難所では子どもたちのためのこころのケアのイベントが週に2度開催されています。避難生活を余儀なくされた人々は食料や避難場所などの生活環境の確保に加えて、心理的な助けを必要としています。

**救援金の受付期間延長**

日本赤十字社は、赤十字国際委員会(ICRC)、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)、各国赤十字社が実施するウクライナでの人道危機対応およびウクライナからの避難民を受け入れる周辺国とその他の国々における救援活動を支援するため、海外救援金を募集しています。
ウクライナ各地で戦闘が拡大・激化し、引き続き深刻な人道危機に直面していることから、支援の拡大および中長期の支援を見据えて、5月末までとしていた海外救援金の受付を延長することとしました。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

「ウクライナ人道危機救援金」受付中
募集期間:
～2022年
9月30日(金)まで

# ”救うを託されている“赤十字の現場から

赤十字には、病院や看護学校、支部、血液センター、本社などさまざまな現場で活動する職員がいます。そんなスタッフの普段の活動や思いをご紹介します。

## ウクライナ人道危機 日赤職員の支援報告

モルドバ派遣 ロジスティックス支援

大阪赤十字病院 河合 謙佑

(C)IFRC/Kathy Mueller

### 必要な人へ物資を届ける仕組みづくり

私は、主にモルドバの首都キシニョフ(キシナウ)にある倉庫で、支援物資の保管管理、適切な配付に向けた計画づくりを担当しています。モルドバにいる赤十字のチームは、アメリカ、スペイン、カナダ等の赤十字社から派遣された職員と、モルドバ赤十字社の職員で構成され、毎日ミーティングを重ねて救援物資だけではなく様々な支援方法の道筋を立てているところです。

現在、モルドバに避難された方の全容が見えない状況にあり、モルドバ政府も把握できていません。モルドバに避難した方々は約9万人と言われ、そのうち95%がホストファミリーの家に避難し、5%がシェルターに避難しています。モルドバ赤十字社及び連盟は、ホストファミリーが受け入れている避難民に対し、毛布や衛生キットを配布しているほか、現金給付の可能性も模索中です。

今後は現地のチームに私が持っているノウハウを伝えることで、現地での主体的な救援物資の配布を目指すほか、モルドバ赤十字社自体への支援も肝要だと考えます。今後、モルドバ赤十字社と一緒に倉庫管理の方法を検討し、必要に応じてトレーニングを行うことで実現していきたいです。

ウクライナ派遣 保健医療支援

大阪赤十字病院 薬剤師 仲里 泰太郎

### 戦時下の街で適切な医療支援を

私は、ウクライナ西部の小さな町ウジュホロドに設置される診療所の薬剤師／メドログ(医療に必要な物品の調達、輸送、管理を行う)担当として派遣されています。日赤からウクライナ国内へは、今回の危機が始まって以降初めての要員派遣で、ゼロから診療所立ち上げの作業に追われています。

医療支援は物と人があるだけではだめで、貴重な医療資材を無駄にしないための管理や運営の準備がとても重要です。分かりやすく言うと、薬局づくりをきっちりやる、ということです。私が日本に帰っても、ここでの避難民支援がしっかりと回っていくように、このセットアップは丁寧に進めていきます。

ウジュホロドはウクライナの中でも安全地帯ですが、それでも毎日のように空襲警報が鳴ります。警報が鳴ると防空壕に逃げ込み、街から人の姿は消え、静まり返ります。上空も、毎日のように怪我人を運ぶヘリコプターが通過し、物資配布所には避難者が長蛇の列を作っています。平和で過ごしやすい街でも、このような日常に遭遇するたび、やはり今、ここは戦時下なのだと実感せざるを得ません。

ハンガリー派遣 現地リサーチ、各種支援の調整

日本赤十字社 国際部 松山 勇樹

### 前例のない支援オペレーションを乗り越える

私は、ウクライナの隣国・ハンガリーの国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)欧州地域事務所に派遣されました。ここで、ウクライナおよび周辺7カ国でのニーズや赤十字の活動についての状況を把握しながら、国際赤十字と連携し、日本赤十字社のリソース(資金・物資・ノウハウ・人的支援)を投入するための協議・調整・手配を行いました。

救援活動はスピード感が重要です。ハンガリーにいることで、ウクライナと時差のない迅速な活動が可能になります。「現地に国際経験豊かな薬剤師を投入したい」という要請を受けた際にも、迅速に大阪赤十字病院の薬剤師である仲里さんを推薦し、実現することができました。

今回のウクライナ支援のオペレーションは複数の国にまたがり、数百万人という規模の移動が起きている前例がない状況で、これを手探りの状態でカバーし支援することが求められています。しかし、前例がなくとも、中期的支援、長期的な復興に向けた支援へと移行するこれまでの仕組みを適応してやっていかねばなりません。

今後も日本赤十字社のリソースを国際赤十字の支援活動に生かしていくとともに、ウクライナとの2国間支援も実施できるように模索していきたいので、ウクライナ赤十字社とも対話を始めているところです。



## 避難民の希望をつなぐ心の支援を

森光 玲雄（もりみつ れお）
諏訪赤十字病院　臨床心理士・公認心理師
国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)心理社会的支援センター登録専門家。
2014年のウクライナ紛争後、IFRCの避難民支援事業でウクライナに複数回派遣され、現地調査および助言提供を担当

### 希望は安心と居場所の先に宿る

避難生活の初期はとても過酷です。特に紛争避難民では生命の危険にさらされたり、町の破壊を目の当たりにしたりと衝撃的体験をしている方も多く、私が出会ったウクライナの国内避難民の方々も、初期は生き延びるために緊張で張り詰めている方が多くいらっしゃいました。

こうした初期のストレスを和らげていくためにまず必要なことは、脅威と離れ安心して過ごせる環境を整えることです。2014年当時、現地ウクライナ赤十字社がまっ先に行った支援も、応急処置、食料クーポンの配布、住宅に関する情報提供など、生きていくことを現実的に支える取り組みでした。

中長期的には、移住先での社会的つながりや役割の再獲得を支えるという視点も大切になっていきます。安心できる居場所や関係性ができはじめると、希望も宿りやすくなります。ウクライナの避難民支援は長期にわたることが予測され、その長い旅路の中でさまざまな支援者が避難者の立場に立って希望をつなぎ続けていくことが大切と考えています。

©IFRC/Victor Lacken

ハンガリー赤十字社の支援センターでは、ウクライナの紛争から逃れた人々に宿泊施設、食事、医療サービス、社会活動を提供する

香川県

## 必ずやってくる大災害に備え「防災とボランティアのつどい」を開催

当日は「さぬきこどもの国」に500人を超える親子が来場。AEDに挑戦してみたり、避難所に持っていくものを親子で考えてみたりするなどの体験ブースが賑わった

3月5日（土）、「防災とボランティアのつどい～親子で学ぼう防災、広げよう減災～」が開催されました。阪神・淡路大震災の翌年に香川県支部が始めたもので、現在は香川県災害ボランティア連絡協議会の構成団体と共催で毎年開催しています。災害の記憶を風化させることなく、防災・減災の意識を高めるためのイベントです。

救護活動や防災活動の写真展示のほか、親子で学ぶ体験コーナーを設置。ボードゲームや工作などで、親子で楽しく防災の意識を高めてもらえるように工夫を凝らしました。

岐阜県

## ドローンを活用した授業で地域課題解決を学ぶ

児童たちがタブレットを使って課題について意見を出し合い、ドローンを使ってどう解決できるのかを話し合う。実行するためのプログラミングを実際に操作しながら学んだ

上矢作小学校では、子どもたちに気づき・考え・実行する力を育んでもらおうとドローンを活用した実践授業を実施しています。12月2日の授業では、地域が抱えている課題について意見を出し合い、店が少ない、農作物が野生動物の被害を受けやすいなどの課題を発見。それらを解決するためにドローンをどのように活用できるか策を考え、実際にドローンを飛ばし実行しました。未来のテクノロジーを使った授業を通じての学びが、今後、さまざまな場面で役立つことを願っています。

三重県

## 青少年赤十字創設100周年記念事業「青少年赤十字ポスターコンクール」を実施

最優秀賞
松阪市立徳和小学校
浅井四葉さんの作品

入選作品は三重県総合博物館「MieMu」で展示された。

支部職員による出前授業の様子

青少年赤十字創設100周年記念事業として、青少年赤十字活動への関心をさらに高めることを目的としたポスターコンクールが実施されました。県内の小･中･高校の授業や部活動で赤十字や青少年赤十字活動について学び、作製された作品は、総応募数586点に上りました。最優秀賞を受賞した浅井四葉さんが所属する松阪市立徳和小学校では、支部職員の赤十字・青少年赤十字活動についての出前授業を受け、各担任による授業で学びを深めながら、ポスターの制作に取り組みました。

京都府

## IFRCユース活動支援プログラムにエントリービデオ第3弾を提出

同チームの企画「絵本：げんきなこころとげんきなからだ」を広め、さらなる感染症レジリエンスの強化を目指す

感染症から来る不安や恐怖の感情に支配されない社会を目指す赤十字京都ユースチームが、世界のユースから新型コロナウイルス感染症などの活動企画を募集するプログラム「Limitless」に、第3弾のエントリービデオを提出しました。

今後はJRC加盟校の児童への絵本を使った授業なども計画されていて、取り組みの輪は着実に広がっています。

広島県

## 青少年赤十字創設100周年特別事業「100万羽おりづるプロジェクト」

広島県では、青少年赤十字創設100周年を記念した「100万羽おりづるプロジェクト」を実施します。県内の児童、生徒たちが参加し、世界的な教育機会の平等を祈りながらおりづるを折るものです。おりづるは、事後にノートとして再生され、教育資材に困窮する海外の子どもたちに届けられる予定です。プロジェクトでは、100万羽のおりづるを使ってレイを制作し、ギネス記録にも挑戦します。

このプロジェクトで多くの子どもたちに、周りの人たちと共に「生きる力」を育む機会を提供したいと考えます。

プロジェクトは2023（令和5）年3月31日まで、「祈る」「折る」「伝える」をコンセプトに実施される

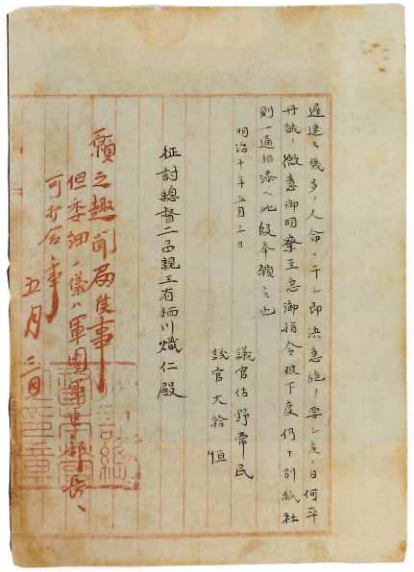
# 佐野常民生誕200年特別企画のお知らせ

## 赤十字WEBミュージアムで10月公開

佐野常民の生誕200年を記念して赤十字WEBミュージアムでは、創設者の人物像に迫る特別企画を準備中です。

東京の日本赤十字社本社1階の「赤十字情報プラザ」でも、佐野が「惻隠の心は天賦の至誠なり」と語ったスピーチ原稿など貴重な生の資料を見ることができる企画展を同時に開催予定です。どうぞお楽しみに!

赤十字の記憶を伝えるWEBミュージアム:
http://www.jrc.or.jp/webmuseum/



佐野常民による自筆の設立請願書(一部)

## 特別企画
## 「青少年赤十字 創設100周年 〜子どもたちに未来を託して〜」
公開中

子どもたちに人道の精神を伝えることで、いつの日か戦争のない世界の実現を、と始まった青少年赤十字。日本初の青少年赤十字は、1922(大正11)年結成の滋賀県守山小学校少年赤十字団です。赤十字WEBミュージアムでは、青少年赤十字創設100周年の特別企画を公開。公衆衛生のポスターや国際交流の写真などで、結成から変わらぬ理念を実践してきた先生や子どもたちの100年を振り返ります。赤十字情報プラザでも、企画展を開催中です。(要事前予約)

### 赤十字情報プラザ

住　所:東京都港区芝大門1-1-3
(日本赤十字社 本社1階)
電　話:03-3437-7580
開館日:火・水・木曜日
開館時間:10時30分〜12時30分
14時〜16時
要事前予約:
電話で仮予約を承ります。現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人数や時間の制限を行なっております。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

赤十字情報プラザの
予約はこちら



# 「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」にて佐野常民生誕200年記念の企画展が開催決定

## 日本赤十字社の父・佐野常民の類稀なる功績を一堂に展示

日本赤十字社の創設者である佐野常民の生誕200年を記念して、2022(令和4)年11月3日(木・祝)より、佐賀県佐賀市川副町の「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」にて特別企画展が開催されます。期間中は、常民が佐賀藩や遊学時代に様々な学び舎で得たものや、受け継がれる博愛の心について、貴重な書や絵画を展示。今の世に改めて博愛を問う、必訪の内容です。

歴史館と隣接する早津江川には、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産にもなっている三重津海軍所跡も。今号の特集2「日本赤十字社の創設者 佐野常民を訪ねて」(P10〜15)もあわせてお楽しみください。

### 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館

博愛のこころを未来へ
200 1822 2022
佐野常民 生誕200年
佐野常民生誕200年記念
博愛の行方
〜佐野常民をつらぬくもの〜

会期:2022(令和4)年11月3日(木祝)〜12月11日(日)

住　所:佐賀県佐賀市川副町大字早津江津446-1
電　話:0952-34-9455
開館時間:9:00〜17:00(最終入館16:30)
休館日:月曜(月曜が休日の場合は、翌平日)
年末年始、その他臨時休館日あり
観覧料:大人/500円・小中高校生/200円
障がい者減免制度あり
20人以上は団体割引あり

常民や常民に関わった人々にまつわる貴重な資料も展示される

## あなたの声をお聞かせください。

「Cross com-BOOK」へのご意見・ご感想をお寄せください。
巻末に付属のアンケートはがきまたは右のQRコードにて受け付けております。

※お寄せいただいたメッセージは、編集のうえ「Cross com-BOOK」に掲載させていただく可能性があります。

## 紺綬有功会のご紹介

**紺綬有功会は、赤十字の表彰である有功章等を受章された方の有志で結成され、
会員相互の親睦を深めつつ、
赤十字事業への支援を目的として各都道府県支部に設立されています。
このページでは、各都道府県の有功会をご紹介します。**

### 鳥取県赤十字有功会

昭和51（1976）年、有功章と紺綬褒章の受章者の有志の方々により設立されました。現在の会員数は約200名です。設立50周年（2026年）に向けて、会員増強をはじめ、積極的な活動に取り組んでいます。

会長　井木 久博
（株式会社井木組　取締役会長）

### 事業内容

□定期総会　□赤十字事業への支援　□研修旅行
□懇親会　等を通じて、会員相互で親睦をはかっています。
※年度によって異なります

令和３年度は、コロナ禍ではあったものの、感染症対策に万全を期した上で、何とか参集形式で定期総会を開催することができました。

【令和３年度　定期総会の様子】

### 令和３年度赤十字支援内容

副会長　岸田 安雄
（有限会社エイダン事務機　代表取締役）

熱心に活動してくださっているJRCメンバーに、日々活用できるグッズを寄贈しました。

副会長　森 敏昭
（三和段ボール工業株式会社　代表取締役会長）

講習会等で使用してもらえるように、県支部に実用的なレーザーポインターを寄贈しました。

副会長　野津 一成
（美保テクノス株式会社　代表取締役会長）

7月の「愛の血液助け合い運動」月間に合わせて、献血バス用PR看板を寄贈しました。

【PR看板拡大】

**● 有 功 会 員 募 集 中 ●**

### 鳥取県赤十字有功会では、有功会員を募集しています

鳥取県内にお住まいの有功章等受章の皆さま、
有功会に入会して一緒に赤十字を応援しませんか？

お問い合わせはこちらまで
日本赤十字社鳥取県支部（☎ 0857-22-4466 / 平日：8：30～17：00）
日本赤十字社　事業局パートナーシップ推進部会員課（✉ kaiin@jrc.or.jp）

私が担当です
鳥取県支部 入川 由記



## 赤十字グッズのご紹介

**＼売り上げの一部が日赤に寄付されます！／**

**文具やアパレル、便利な雑貨など、
日赤をより身近に感じてもらえるようなグッズを多数販売中！
ここではその一部をご紹介します。**

ハートラちゃん付箋（おさんぽ）

価格：185円（税込）

◎ハートラちゃんとハートちゃんがお散歩をしている台紙付き付箋です♪
●サイズ：71mm×71mm　●積層枚数：50枚　●OPP個包装入り

パイロットボールペン ジュース（ハートラフェイス）

価格：110円（税込）

◎大好評のパイロットボールペン。ハートラちゃんデザインでリニューアルしました。
●カラー：ブルー、ライトブルー、ライトグリーン、オレンジ、ピンク
●インク色：黒　●ペン先：0.5㎜

ハートラちゃんぬいぐるみ（大）（小）

価格：（大）2,900円（税込）、（小）950円（税込）

◎どちらのサイズもしっぽを支えに自立します。
小さいサイズはストラップ付です。

赤十字七原則Tシャツ（カード付）

価格：2,310円（税込）

◎ 生地は6.2オンスと厚手で、デイリーにお使いいただけます。
●本体カラー：ホワイト　サイズ：S、M、L、XL

※こちらの商品は、通年で売り上げの一部が日本赤十字社の国際活動に寄付されます。

赤十字七原則エコバッグ

価格：690円（税込）

◎マットな質感の素材を使用し、日常で使いやすいベージュカラーを採用しました。
●本体カラー：ベージュ
サイズ：約W450xH250xD200mm（船底）
（収納時：約W150xH65xD30mm）

日赤サービス
nisseki service Co., Ltd.

問い合わせ先：株式会社日赤サービス
〒105-0012　東京都港区芝大門1丁目1番3号
日本赤十字社ビル 西館1階
TEL：03-3437-7515　FAX：03-3459-1432

※送料は１回のご注文につき660円かかります。
１万円以上ご購入の場合は無料になります。

他にも多数商品を取り揃えています。
詳しくは「オンラインショップ」へ。
ご注文はインターネットのほか、FAX、郵便でも受け付けています。
カタログのご用意もありますのでご希望の方は左記窓口までお問い合わせください。

**オンラインショップはこちら！▶**

日本赤十字社会員誌
Cross com-BOOK
vol.3

**日本赤十字社会員誌　Cross com-BOOK** [クロスコムブック]　令和4年7月1日発行　第3号
日本赤十字社　〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3437-7081　https:www.jrc.or.jp

**赤十字の最新情報を、SNSでチェック!**

人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society